

(様式1)

環境配慮検討書

事務連絡

平成16年2月4日

環境管理監会議 部会長 様

志摩建設部長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	主要地方道 磯部大王線 道路改良事業	
連絡先	担当課名	三重県 南勢志摩県民局 志摩建設部

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	主要地方道 磯部大王線 道路改良事業	
(2)目的	<p>(主)磯部大王線は、阿児町東側太平洋沿いに点在する古くから発展してきた集落を連絡し、中心市街地へアクセスする生活道路です。一方、志摩郡磯部町と志摩郡大王町の各生活圏相互を連絡する補助幹線道路としての機能も持った道路でもあります。</p> <p>しかし、当該事業区間は、幅員が狭小で見通しが悪く、歩道が設置されていないなど危険な状態となっています。このため本路線に求められている道路としての役割を果たすことが困難となっており、本事業は、このような状況を解消し、安全で円滑な道路交通を確保することを目的としています。</p>	
(3)事業主体	三重県	
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	三重県志摩郡阿児町甲賀地内～大王町畔名地内
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) 配置図を添付すること	a.道路規格 2車線、延長3.3km、道路幅員7.5m 設計速度40km/h b.計画交通量：2,566台/日
	用水の使用計画	-
	エネルギーの使用計画	-
	雨水、汚水の排水計画	雨水：道路排水施設により下流河川に流下 汚水：なし
	道路・交通計画 当該事業区間の前後まで整備が進められています。主要な交差道路として県道里鹿谷線が整備済みであり、町道市後浜神社線の整備が進められています。	
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期 ・着工：平成17年4月頃予定 ・完工：平成27年3月頃予定 ・供用：平成27年3月頃予定
(5)関連事業計画	特になし	
(6)その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	<p>計画道路が位置する阿児町南部の主要道路網は、南北方向の一般国道 260 号及び(主)磯部大王線、東西方向の(一)里鹿谷線で形成され、交通量は(主)磯部大王線が 2,000(台/日)、一般国道 260 号が 16,000(台/日)です。</p> <p>公共交通機関は、近鉄鵜方駅と志島を(主)磯部大王線経由で連絡するバス路線があります。</p>
	土地利用の現況	<p>計画道路の周辺地形は、低地と丘陵地からなり、低地は水田を形成していますが、現在はそのほとんどが休耕田となっております。また、丘陵地は主に宅地と畑地として利用され、斜面には自然林が残っています。</p>
	水域利用の現況	<p>計画道路の周辺には、水道水源はありません。前田川及び池田川が水田の排水路として利用されています。</p>
	生活関連施設の現況	<p>計画道路の近隣には、志島小学校、甲賀小学校が立地していません。病院、文化施設、廃棄物処理施設は立地していません。</p>
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	<p>a.自然環境保全地域：指定なし</p> <p>b.自然公園地域：全域伊勢志摩国立公園区域、その内(主)磯部大王線より海側は第三種特別地域として指定されています</p> <p>c.鳥獣保護区：指定なし</p>
	土地利用規制の現況	<p>a.都市計画法：全域都市計画区域外です。</p> <p>b.農業地域振興法：全域農業振興地域、その内一部の区域は農用地区域に指定されています。</p> <p>c.森林法等の規制状況：保安林の指定はありません。</p>

3 計画地の自然的条件の現況

(1) 地形・地質	文献調査	文献名	日本の地質(中部地方)	
	現地調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無(実施日時)	聴取調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無
	調査結果等	計画地の地形は、標高20～30mの丘陵地と標高0～2mの低地からなり、地質は、四万十累帯の砂岩と泥岩の互層・比較的厚い砂岩層からなります。		
(2) 水象	文献調査	文献名	なし	
	現地調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無(実施日時)	聴取調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無
	調査結果等 河川、湖沼 海域	a.河川分布：準用河川前田川 b.河川流量： -----		
(3) 気象・大気質等	調査の方法	第6次阿児町総合計画 三重の環境 - 大気汚染常時監視測定結果(観測年数：平成13年度)		
	調査結果	気 温： 16 (年平均) 29.5 (最高) -2.1 (最低) 降 水 量： 2,000mm内外(年降水量 平成12年度) 最多風向： NW 風 速： 年平均2.7m/s 最大10m/s 大 気 質： 最寄りの大気汚染常時監視測定局(鳥羽市)における結果は以下のとおりです。(平成13年度) SO ₂ 0.006ppm(年平均) NO ₂ 0.008ppm(年平均) SPM 0.027mg/m ³ (年平均) 水 質： なし		
(4) 生態系等	文献調査	文献名	平成13年度版三重県環境白書	
	現地調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無(実施日時)	聴取調査の有無	有・ <input type="radio"/> 無
	調査結果等 植物	植生の概要：植生は、主に亜熱帯から温帯にかけて発達する常緑広葉樹林と温帯を占める落葉広葉樹林が大部分を占めています。沿岸地域の植物として砂浜海岸ではハマヒルガオ、ハマニガナ、コウボウムギ、ハマエンドウなどが見られ志摩から熊野灘沿岸にかけてハマオモトが生育しています。文献により計画地周辺には貴重な植物個体、植物群落はないと考えられます。		
	動物	動物相の概要：哺乳類はネズミ類、キツネ、タヌキ、イタチ、イノシシ、ホンシュウジカなどが広く分布し46種の生息が確認されています。文献により計画区域には貴重な動物はいないと考えられます。		

(5) 自然景観・文化財等	文献調査	文献名	三重県土地利用規制図 遺跡分布地図	
	現地調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	(実施日時)	聴取調査の有無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要：計画道路の周辺は、休耕田と丘陵地の斜面の森林からなる里山の風景が広がっています。</p> <p>貴重な自然景観：特になし</p>		
	文化財、史跡、 名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物：特になし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：計画道路は以下の埋蔵文化財包蔵地の近隣を通過します。 浜田の浜遺跡、見宗寺山古墳、金糶遺跡 事業計画案（Cルート）は金糶遺跡を回避します。</p>		
野外レクリエーション 他	<p>計画道路の近隣には、サーフィン等のマリンスポーツを楽しむ若者で1年中にぎわう「市後浜海岸」があります。</p>			
(6) その他、 自然災害等				

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

	事業計画案	比較検討（A案）	比較検討（B案）
(1)計画の概要	山裾を通過するバイパスルート	現道拡幅を基本としたルート	尾根を通過するバイパスルート
環境評価（*左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入） 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然が共にある環境の保全 やすらぎと潤いのある快適な環境の創造			
-1 地球温暖化防止	交通の円滑化が期待でき、森林の消失面積も比較的小さい。	交差点が多いことなどから排ガス発生抑制効果が小さい。	交通流の円滑化が期待できるが、森林の消失面積が大きい。
-2 廃棄物対策	概ね土量バランスがとれているため、建設残土の発生は少ない。	支障家屋が多く、建設廃材が大量に発生する。	大量に発生する伐採木の活用に努める。
-3 生活環境の保全	既存集落をバイパスで通過する区間が長いことため生活環境が向上する。	現道拡幅のため生活環境の向上効果は小さい。	既存集落をバイパスで通過するため、生活環境が向上する。
-4 その他重点項目	バイパス区間が長く、工事に伴う現道交通への影響は小さい。	工事段階において、沿道住民に騒音の影響を与える。	バイパス区間において工事に伴う現道交通への影響は小さい。
-1 野生生物等の生育空間の確保	山林と休耕田を移動する野生動物等の経路を分断する可能性がある。	現道拡幅のため、野生生物等の生育空間への影響は小さい。	森林の消失面積が大きいため、野生生物等の生育空間が減少する。
-2 希少な野生生物の保護	希少な野生生物は確認されていないが、施工前及び施工中に確認された場合は保護に努める。	沿道は開発により希少生物が生息している可能性が小さいと考えられる。	希少な野生生物は確認されていないが、施工前及び施工中に確認された場合は保護に努める。
-3 地形、地質等の改変の抑止	切土、盛土による地形の改変の抑止に努める。	現道拡幅のため、地形の改変は比較的小さい。	大規模な切土、盛土により地形の改変が大きい。
-4 その他重点項目	土工量は事業区間内で概ねバランスがとれる。	事業区間内で盛土量が不足するため、区域外からの搬入が必要である。	事業区間内で残土が発生するため、区域外への搬入が必要である。
-1 緑化、周辺景観との調和	盛土のり面の植栽等により周辺景観との調和に努める。	現道拡幅のため周辺景観に対して大きな影響はない。	オープンカット区間において自然景観との調和が困難である。
-2 親水等、ふれあい空間づくり	時になし	特になし	特になし
-3 その他重点項目	埋蔵文化財包蔵地を回避して路線選定している。	埋蔵文化財包蔵地(金糶遺跡)の近隣を通過する。	埋蔵文化財包蔵地(金糶遺跡)の近隣を通過する。
上記以外の特記事項	特になし	特になし	特になし

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	集落の少ない地域を通過するバイパス計画のため、他案に比べ交通の円滑化による地球温暖化の防止、生活環境の保全の面で優れます。さらに、事業区間内で土量バランスがとれ、盛土のり面を植栽することにより周辺環境との調和が図れます。なお、文献調査の結果、特筆すべき貴重な動植物の生息・生育区域は計画区域内に存在しないと考えられます。
短所	現道拡幅案に比べ地形の改変面積が大きくなりますが、できる限り地形の改変の抑制に努めます。
会議で調整を要する事柄	